

融ける大地

温暖化するシベリア・中央ヤクーチア

Thawing Earth

Global Warming in Central Yakutia, Siberia

サハ共和国の自然、民族文化、地球温暖化の影響を紹介します。

2019

2.2_[土] ▶ 4.7_[日]

休館日 / 月曜日 ※2月は無休

開館時間

9:30-16:30

観覧無料

会場：北海道立北方民族博物館 特別展示室

〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)

Tel.0152-45-3888 / Fax.0152-45-3889 / HP: <http://hoppohm.org>

主催：北海道立北方民族博物館・ArCS テーマ7



共催：東北大学東北アジア研究センター



上：マンモス牙製彫刻
中：女性用手袋
下：ウマ用飾り布
右：女性用衣装 / サハ

企画展 融ける大地—温暖化するシベリア・中央ヤクーチア

Thawing Earth—Global Warming in Central Yakutia, Siberia

北方は地球温暖化の影響を強く受ける地域の一つとされています。本展示では、文部科学省の補助事業として実施されている北極域研究推進プロジェクト（ArCS: Arctic Challenge for Sustainability）の研究成果から、サハ共和国（ヤクーチア）中央部の自然、人びとの生活、そして地球温暖化の影響を紹介します。



2月の温度計
(2013年、サハ共和国/オイミヤコン郡)

サハ共和国は、日本の約8倍の面積を持つロシア連邦最大の連邦構成主体です。人が住む土地としては世界でもっとも寒く、冬の気温は -50°C 以下になることも珍しくありません。一方、夏の気温は $+30^{\circ}\text{C}$ を超えることもあり、年間の気温差は 80°C 以上になります。

サハ共和国の地下には、ほぼ全域に厚い永久凍土層があり、地域の景観や植生、民族文化に大きな影響を与えています。

サハ共和国の多数派を占める民族・サハ（ヤクート）は、伝統的にウマとウシの牧畜を生業としてきました。特にウマは、サハの伝統を象徴する存在で、その精神文化のなかで重要な位置を占めています。現在もサハ共和国中央部では、ウマ・ウシの牧畜が盛んにおこなわれています。



冬期のウマの世話 (2018年、サハ共和国 / チュラプチャ郡/撮影: 藤岡悠一郎氏)

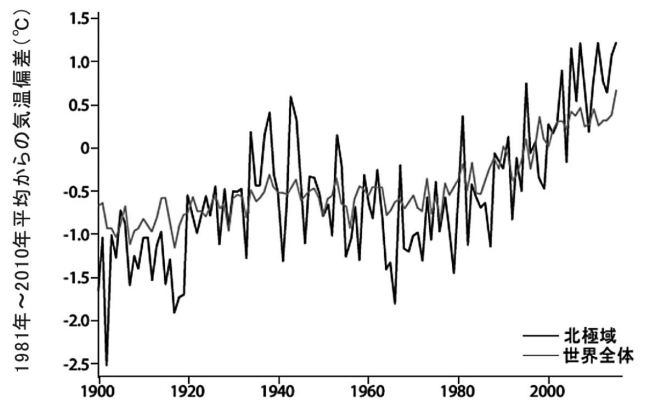


サハ共和国の紋章

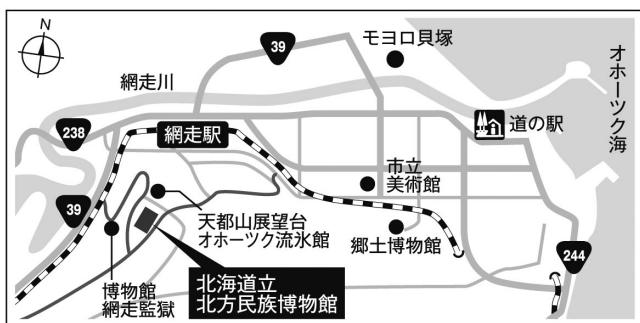
世界の平均気温は徐々に上昇しています。気候変動に伴い、サハ共和国では永久凍土の融解が進行し、地面の陥没や大規模な地滑りなどが発生しています。また、それ以外にも、洪水の増加や動植物の分布変化などさまざまな環境変化が起こっています。

こうした変化は、そこに暮らすサハの牧畜や日常生活にも影響を及ぼしているのです。

北極域(北緯60~90度)と世界全体の地上気温偏差 (SWIPA2017報告書より)



地表が部分的に陥没して凸凹になった土地 (2017年、サハ共和国/チュラプチャ郡/撮影: 飯島慈裕氏)



【関連事業】

- 展示解説会 2月2日(土) ①10:00~10:30、②13:30~14:00
解説: 中田篤(当館)
- 講習会「サハの刺繍」2月16日(土) 9:30~12:30
講師: ナターリヤ・ネウストローエヴァ氏(版画家/イラストレーター)
- 講座「凍土の融けゆく大地」2月17日(日) 10:00~11:30
講師: 飯島慈裕氏(三重大学/准教授)
- はくぶつかんクラブ(小中学生対象) 10:00-12:00
2月23日(土) 手作りバターと簡単チーズ
3月16日(土) ロシア風ぎょうざ「ペリメニ」づくり

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1 (道立オホーツク公園内)
Tel.0152-45-3888 / Fax.0152-45-3889 / <http://hoppohm.org>